

学校教育目標	ゆめにむかって かしく やさしく たくましく
目指す学校像	「地域に根ざし、地域に愛され、地域とともに育つ」学校 「思いやりとやさしい心があふれる」学校
重点目標	1 学びの自律化 <昨日よりも今日、成長したことが実感できる学習指導> 2 児童一人ひとりがWell-Beingな学校 <温かい学級経営、安全・安心な教育環境整美、確かな児童理解に基づく教育相談・生徒指導> 3 コミュニティスクールの推進<子どもを中心に、地域に根ざし地域に愛される学校> 4 教職員の資質向上と働き方改革 <教職員が互いに高め合う学校課題研究。心身ともに健康で働きやすい職場環境>

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		年 度 評 価		実施日令和8年2月12日	
		番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
学びの質の向上に 関する取組 心のサポートに関する取組 地域とともにある 学校づくりに関する取組 教育環境の整備に 関する取組 教職員のキャリア形成に 関する取組	1	(現状) ・市学習状況調査「学習内容の分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」の肯定的回答割合は90.5%である。 ・家庭学習の習慣が定着傾向にある。学校評価「家庭で学習する習慣が身に付く」の肯定的回答割合は児童79.9%、保護者75.0%である。 (課題) ・高学年児童は他学年と比べると図書館の利用頻度が劣る。市学習状況調査「読書は好きですか」という質問で、肯定的な回答をした児童の割合は66.7%~96.5%と学年ごとに異なる。	児童の学びの自律化と家庭学習や読書の習慣化による基礎学力の向上	①ICT 機器を活用し、児童が自分の意見をまとめたり、分かりやすく伝えたりする学習を各教科で実施する。(各単元1回以上) ②学校から各家庭に配布した「家庭学習の手引き」に基づき、年間を通じて家庭学習を実施する。(通年) ③朝読書や図書ボランティアによる読み聞かせ等を実施する。(朝読書:週1回 図書ボランティアによる読み聞かせ:年間3回以上)	・学びの指標で ICT の項目が昨年度を超える (R6:2.94) ・保護者の学校評価「学力が身に付いている」で肯定的回答割合が前年度より向上。(R6:89.3%) ・児童の学校評価「家庭で学習する習慣が身に付いている」で肯定的回答割合が昨年度より3pt 向上。(R6:+1pt) ・全国学力・学習状況調査「1日の読書時間平均30分以上」の割合が全国平均以上。	・学びの指標で ICT の項目における校内平均は3.19 (前年度比+0.25pt)。 ・ICTを活用した授業について、全教職員で研究し、日々の実践につなげることができた。 ・保護者の学校評価「学力の定着」で肯定的回答割合は81% (前年度比-8.3pt) 児童は85% (前年度比+4pt) 教職員は97% (前年度比+11pt)。 ・児童の学校評価「家庭学習の習慣」で肯定的回答割合が昨年度より2pt 向上。 ・全国学テ「1日の読書時間平均30分以上」の割合が全国平均を9.2pt 上回った。	B	・家庭学習の取組状況を保護者にアンケート調査し、集計結果を懇談会にて周知するなどした。次年度も継続して家庭と連携し、学習の習慣化を進める。 ・朝読書を週1回、図書ボランティアによる読み聞かせを学期3回実施した。また、講談社の訪問型読書推進事業の実施により、児童の図書に親しむ機会を昨年度よりも多く設定した。 ・全国学力・学習状況調査、市調査の結果を分析しつつ、引き続き児童の読書の習慣化を図り、基礎学力の向上につなげていく。	・読書は児童の学びの根底につながる。図書ボランティアの協力などに支えられ、児童が図書に親しむ機会を多く設定できているのがよい。 ・ICTの活用とともに、引き続き読書の習慣化を進めるとよい。 ・図書ボランティアとして継続して活動してきた中、このような調査結果に表れているのは喜ばしい。
	2	(現状) ・「スマイルフェスティバル」をはじめ、児童会を中心とした異学年交流を行っている。 ・学校評価「思いやりの心が育っている」について、肯定的回答割合が児童、保護者ともに令和5年度より6pt 向上した。 (課題) ・児童同士のトラブルは昨年度複数発生し、心のすれ違いやコミュニケーション力不足に起因する事案が多い傾向にある。	インクルーシブ教育にもとづいた「思いやりとやさしい心があふれる」学校の実現	①特別支援学級についての理解を深めるため、校長講話等を行う。(全校:年間4回 各学年:年間1回以上) ②共同・交流学習をより一層推進し、学校行事、異学年交流等を含め、障害のあるなしによらず子どもが同じ場で共に学ぶ。(通年) ③通級指導教室の担当教諭と学級担任との連携を図り、通級指導で学習したことを学級で実践する。(通年)	・児童の学校評価「思いやりの心が育っている」で肯定的回答割合が昨年度と同水準。(R6:95.9%) ・保護者の学校評価「特別な支援が必要な児童に対して配慮ある教育がなされている」で肯定的回答割合が昨年度と同水準。(R6:98.2%)	・児童の学校評価「思いやりの心が育っている」の肯定的回答割合は96% (前年度比+0.1pt)。 ・校長講話や、大縄跳びの取組などの異学年交流等を、年間を通して実施した。 ・保護者の学校評価「特別な支援が必要な児童に対する配慮ある教育」の肯定的回答割合は93% (前年度比-5.2pt)。	B	・通級指導教室の担当教諭と学級担任との連携により、該当児童が通級指導での学びを実践に生かす姿が見られた。 ・校内に留まらず、大久保中生徒との交流も計画的に実施し、相手を知り、関わりを広げる機会を多くもつことができた。次年度は他者とのかかわりを見つめ、深めることにつなげていきたい。	・「配慮ある教育」についての保護者回答は昨年度から下がっているものの、令和5年度から見ると上がっている。 ・実際の取組等をより多くの保護者が理解できるとよりよい。そのための情報発信等をさらに工夫するとよい。
	3	(現状) ・昨年度、学校運営協議会を3回開催し、第2回では、児童が参加し自校の取組や思いを委員の方々に伝えることができた。 ・市学習状況調査「地域の行事に参加」に対する児童の肯定的回答割合は81.1%、「地域の人たちは自分たちを見守り支えてくれている」に対する児童の肯定的回答割合は95.2%である。 (課題) ・地域の教育力を借りることで、教育活動を一層充たせ、児童の地域への愛着を育む。	コミュニティ・スクールを推進し「子どもを中心に地域に根ざし地域に愛される学校」の実現	①地域、保護者の方が学校の様子がわかるように、学校だより等を学校 HP に掲載する。(毎月) ②SSN 連絡協議会(2回)学校運営協議会(3回、児童の参加)等を通して積極的に地域、家庭に情報を発信し活動の周知、協力を進める。 ③「学校ボランティア」を組織し、学校ファームの計画的な経営、図書館教育を実施する。(学校ファーム会議2回 図書ボランティア会議3回)	・児童、保護者の学校評価「地域の行事に参加している」で肯定的回答割合が昨年度と同水準。(R6:児童79.4%保護者89.3%) ・「学校だより等で学校の様子がよくわかる」で肯定的回答割合が昨年度と同水準 (R6:91.1%)	・児童、保護者の学校評価「地域の行事に参加」の肯定的回答割合は、児童80% (前年度比+0.6pt) 保護者80% (前年度比-9.3pt)。 ・「学校だより等で学校の様子がよくわかる」の肯定的回答割合は94% (前年度比+2.9pt)。 ・組織化した「学校ボランティア」の活動により、多くの教育活動で児童の学びを深めることができた。(R7 学校ボランティア登録者54名)	B	・学校運営協議会における児童の主体的な参画をさらに推進し、学校内の広がりやSSN関係団体等との連携につなげていきたい。 ・次年度も学校ボランティアをはじめとする地域の教育力を借りながら教育活動を進め、児童の地域への愛着を一層高められるようにする。	・「地域行事の参加」については、忙しい保護者も参加できる工夫も必要だと感じる。 ・情報発信により学校の様子がよく伝わってくる。電子と紙双方のよさを活かすとよい。 ・学校ボランティアは計画から実現まで迅速に進められた。 ・学校運営協議会の児童参加等を通して、児童が自分の考えを表現する力がついてきていると感じる。
	4	(現状) ・校舎の老朽化に伴う不良箇所が発生する中、優先順位を付けながら修繕等を進めている。 ・学校評価「安全確保・安全対策」に関する保護者の肯定的回答割合は令和5年度より10pt 向上した。 (課題) ・今日的な事件・事故事案を踏まえ、自然災害や不審者などへの対応力を高める。	安全・安心な教育環境整美	①毎月、安全点検を確認するとともに、適切な修繕を計画的に進める。 ②予算を計画的に執行するとともに校長マネジメント枠により増額した手数料を有効活用する。(2月末) ③より実践的な傷病者対応訓練(体育活動時、水泳指導時、複数傷病者発生時等)を実施する。また、様々な自然災害に対応した避難訓練、不審者対応訓練を実施する。(通年)	・保護者の学校評価「安全確保、安全対策」で肯定的回答割合が前年度と同水準。(R6:92.9%) ・学校配当予算の執行率99%以上。(R6:99.1%)	・保護者の学校評価「安全確保、安全対策」の肯定的回答割合は86% (前年度比-6.9pt)。 ・管理費、教育振興費の全9費目中、6費目の執行率は1月末段階で89%超だった。他の費目においても3月に執行予定の案件を含め、年度内に99%の執行を目指す。 ・教職員の対応力向上を目指し、傷病者対応、自然災害時の避難、不審者侵入時を想定した訓練を実施した。	B	・訓練時に明らかになった課題の解決のため、再度訓練したり、実際の対応事案の経験を基に策を練り直したりできた。児童向け不審者対応訓練の実施など、有事に万全を期すことができるよう、さらに訓練を重ねていく。	・老朽化した箇所等の修繕を行っている。また、児童のけが等の際に、養護教諭をはじめしっかりと対応してくれるので、保護者として安心する。 ・地域で不審者情報が挙がった際にも、中学校と連携して迅速に対応して安心できた。
	5	(現状) ・児童の主体的な学習を促す授業改善をテーマに、学校全体で研修を行っている。 ・高学年の教科担任制を実施している。 (課題) ・学校課題研究を充実させ、教職員の資質向上をさらに図っていく必要がある。 ・時間外勤務の縮減に取り組み、教職員が健康で働きがいのある職場環境づくりを図る。	教職員がやりがいを持ち、健康で能力を最大限に発揮できる環境づくり	①ベテラン教員と新人教員を組み合わせた人事配置により、毎日のOJTを充実する。(通年) ②教職員に研修履歴や深めたい学びについて市教委が主催する様々な研修について奨励する。(通年) ③計画的に校内研修を実施する(年間25回以上) ④勤務規律と教職員事故防止のため、勤務研修を実施し、危機管理意識の向上を図る。(毎学期1回)	・児童の学校評価「学校の授業が楽しい」で肯定的回答割合が前年度と同水準。(R6:92.7%) ・人事異動調査の職務についての満足度(肯定的回答)が前年度と同水準。(R6:93%)	・校内研修を30回(学校課題研修、ICT活用研修、研究授業 他)、教員相互の授業公開・協議は年間を通して実施した。 ・児童の学校評価「学校の授業が楽しい」の肯定的回答割合は93% (前年度比+0.3pt)。 ・勤務研修を学期1回、倫理確立に関するチェックシートを学期2回実施し、全項目で80%超が適正な回答だった。 ・人事異動調査の職務についての満足度(肯定的回答)は93%。	A	・来年度、学校課題研修は3年計画における3年目となる。今年度研修の成果と課題を踏まえて研修を行い、児童の主体的な学習を促す授業改善を進める。 ・時間外在外校等時間月平均は25h20m (前年度比-40m) で、R6 よりも良好な状態とすることができた。 ・引き続き、教職員が健康で働きがいのある職場環境づくりを図る。	・職務についての満足度93%は素晴らしい結果である。満足しているから研修意欲が高く、児童が楽しいと感じる授業実践につながっている。 ・小規模校の強みを活かして、どの教員も学級を超えて親身に対応してくれている。

